



# 夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校  
学校通信第47号(R5. 2. 22)

## 梅一輪 一輪ほどの 暖かさ

三宅雪嶺の句です。この句が表現しているように、ほんのり暖かさが感じられるようになりました。三寒四温を繰り返しながら少しずつ春が近づいています。

## 授業研修の風景

本年度、河東中で行われる公開授業も残り少なくなりました。今回は、碓先生が学級活動の4時間計画のうち、最後の時間を公開しました。いつも構造的で美しい板書をする碓先生が、ICT活用分野でも先端を走っている姿が見られました。



7年2組で公開された学活の授業。7年生のキャリア教育として「働く人に話を聞く会」を先日行いました。それを受けて今後の自分の生活に生かすことを学級で考えました。心がけや学習面・生活面に分けて、今の自分に必要なことを各自で考え、グループ交流をしました。その際、タブレットのジャムボードを使って交流活動が行われました。

## 野本健輔先生、福岡県教育センターで研修報告会を開催!

本校職員の野本健輔先生は、宗像地区の中学校を代表して1年間かけて数学科教育の在り方の研究に携わっています。1年間かけて研究した数学の授業について、2月3日、篠栗にある福岡県教育センターで研修報告会が行われました。当日、校長と村瀬主幹・清水先生が発表を聴講しました。

野本先生が研究している数学の授業のテーマは、学習の目的を貫く課題設定と振り返りの工夫です。さらに、数学的知識と技能を統合・発展させるためにはどういった授業が効果的かということを考えています。時々、河東中の7年生の授業に加わって研究の成果を検証してきました。この研究はやがて宗像の財産になるでしょう。



## 本年度最後のミニビブリオバトルが開催されました

～今年最後のチャンプ本は9-1松尾陽向さんが発表した『ホームレス中学生』に決定～



『未来インソップ』9-3荒川巧成さん、『西の魔女が死んだ』8-2小藪遥稀さん、『Bullets (バレットズ)』8-3小島美沙希さん、『ホームレス中学生』9-1松尾陽向さんの発表による冬のミニビブリオバトルが、21日(火)昼休みに図書室で開催されました。この集まりに参加すると、河東中の知的水準の高さをいつも感じます。河東中ではICTの活用が進んでいる一方で、紙による本の文化もしっかりと息づいています。

## 敵だけど味方、共生を求めたヒーロー ～「アンパンマン」の作者・やなせたかしさんの伝言2～

前回に続いて、今回もやなせたかしさんと「アンパンマン」の魅力について書きます。今回、河東中のみなさんに伝えたいのは、やなせさんの2つの考え方です。1つは、敵をたたきつぶさない、敵だけど味方「共生」という発想です。ばいきんまんというキャラクターの扱いを思い浮かべてください。悪さを重ねるばいきんまんもアンパンマンは仲間にしようとする場面があります。やなせさんの興味深いインタビューを紹介します。10年以上前のものですが、コロナ前にこんなことをやなせさんが言っていたのはすごいと思います。



「バイキンは食品の敵ではあるけれど、アンパンをつくるパンだって菌がないとつukれない。助けられている面もあるのです。つまり、敵だけれど味方、味方だけれど敵。善と悪とはいつだって、戦いながら共生しているということです。アンパンマンが成功したのは、ばいきんまんの功績が大きい。自分で言うのもなんだが、ばいきんまんは世界的傑作だと思う。ばいきんまんの登場によって、アンパンマンに、もうひとつのメッセージが生まれました。『共生』だ。バイキンは食べ物の敵ではあるけれど、実は、パンだって酵母菌がないとつukれない。バイキンも、食べ物がないと繁殖できない。つまり、パンとバイキンは、敵だけれど味方、味方だけれど敵という共生関係にあるわけだ。これは、われわれ人間にも言える。バイキンが絶滅すればいいのかというと、実はダメなのだ。人間も生きられなくなる。人の体内にはおびただしい数のバイキンが生きている。健康な人は、バイキンと戦いながら、両方が拮抗して、ある種のバランスを保って生きている。一度戦った細菌やウイルスに対して免疫ができる場合もある。だが、これで安心かというとそうではなく、次から次へと新型ウイルスが出現し、人は永遠にそれらと戦っていくことになる。そうした戦いをせずに、ウイルスや菌と共生する知恵、それがワクチンだ。こうして敵対するものとも共生していく。それが人間の知恵のすばらしさなのである。」

2つ目は、やなせさんは若い人に職業に関するメッセージを送っています。これもインタビュー記事から引用しましょう。

「若い人には、好きなことができる職業についてほしいと言いたい。好きなことなら、少々労働条件が悪くても、つらいとは思わない。絵を描くことが好きなら、画家や漫画家になるだけじゃなく、美術館で働くとか、絵本をつくるといった仕事もある。スポーツが好きだけれどプロでやれるほどではないなら、スポーツグッズ関係の会社で仕事をするとか、道はいろいろある。そんな仕事を見つけてほしい。絶えず探し求め、探し続けていなければ、チャンスにはめぐり合えない。失敗を恐れず、挑戦してみることだ。」

さらに、やなせさんは夢の実現に必要なことを次のように語っている。

「夢の実現に必要なことは何だろう？—とにかくやり続けること。どんなにうまくいなくても、そうすればいつかは花が咲く。ぼくはあきらめずにやり続けたからこそ成功したのである。もう1つは、好きなもの以外の武器を持つこと。やりたいことだけをやっていたのではダメ。何かをやりたいと思つたらほかのこともできないとダメ。いろんなことを幅広く吸収するには、一番よいのは学校の勉強。」

やなせさんのこうした考え方の原点は、やはり過酷な戦争体験にあります。世界にヒーローはたくさんいますが、自分を食べさせるヒーローはアンパンマン以外にいません。ちっともハンサムではないし、かっこよくありません。けれど、そんなアンパンマンを世界中の子どもたちは愛しています。さけられない戦いはあるけれども、なんとか敵をも味方にしようという発想はこれからの社会に必要な考え方ではないでしょうか。

やなせさんは晩年こう語っています。「本当に戦うべき相手とは、飢えや公害などである。」